

# 共創郷育

## ～学校が地域の拠点で防災基地～

### 徳島県立那賀高等学校

11 住み続けられる  
まちづくりを



13 気候変動に  
具体的な対策を



## I テーマ

平成26・27年の台風による大雨により、本校のすぐ横を流れる那賀川が氾濫し、那賀町は甚大な被害を受けた。本校も那賀川に面したブロック塀が倒壊し、寮や実習棟が床上浸水等の被害に遭った。こうした突然の災害にも対応できる準備と対策の必要性を再確認するとともに、地域との「顔の見える関係づくり」を活発にして、防災について積極的に発信していくことが重要であるとともに、森林の機能である洪水調整機能についても今後学んでいく必要があると考え、「共創郷育～学校が地域の拠点で防災基地～」をテーマとした。

## II 目的

被災をきっかけに、学校だけでなく、地域の様々な関係機関との緊密な連携による防災学習や訓練を実施することで、地域の一員としての防災意識を向上させ、災害発生時における積極的な参画を促進し、地域防災を担うリーダーをめざして活動している。

## III 実践者及び期間

平成24年に防災クラブを立ち上げ、今年度で10年目となる。これまでの活動は防災クラブを中心に学校全体で防災に関する活動に取り組んできた。



## IV 主な活動内容

### ①地域で行われた防災プログラムへ参加

那賀町社会福祉協議会主催のボランティアスクール夏篇「防災プログラム」が阿井公民館であり、地元小・中学生と防災クラブ員が参加した。阿井公民館が避難所になった場合を想定して、避難所設営体験と防災食の試食を行った。どの部屋をどのように活用するか、居住スペースをどう間仕切りするとよいか等を考え、意見を出し合い、段ボールを使って疑似避難所を設営した。また、段ボールで簡易トイレ・ベッド・椅子を作製した。実際に防災に役立つ知識を、小・中学生と交流しながら学ぶことができた。



### ②防災リュックと防災マスクの作製

毎年、卒業生に向けて防災リュックを作製して贈っている。今年度は70枚程度作製した。また、地元で生産されている相生晩茶を使って染めた防災マスクを作製し、昨年度は地元デイサービスに贈り、今年度はエシカルクラブが行っている服活イベントの来場者へメッセージを添えて配付した。





## IV 主な活動内容

### ③防災キャンプへ参加

本校の実習棟多目的室と那賀町丹生谷橋付近において、防災キャンプとして那賀川河川事務所による出前講座を実施した。はじめに、那賀川の概要や防災について講演があった。講演の中で平成26年の那賀川が氾濫した際のダムの様子や被災状況について説明があり、あらためて災害の恐ろしさを実感した。さらに、緊急時に役立つ情報を得るサイト等を紹介され、常日頃から防災情報を確認する習慣が必要だと感じた。次にグループに分かれて防災カードゲームを行った。皆でゲームを楽しみながら、防災に関する知識を学ぶことができた。その後、丹生谷橋付近の那賀川の水質検査と流量調査を実施した。水質検査では、パックテストで那賀川のpHやCOD（水の汚れの度合い）を調べ、流量調査では、橋の上から浮子（ふし）を落として、決められた地点までの時間を計り、川の断面積と流速から流量を算出した。短い時間だったが、大変充実した体験ができた。

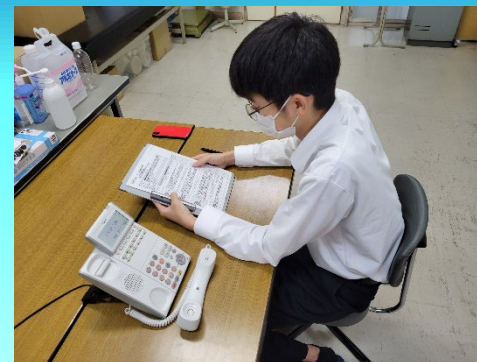


## IV 主な活動内容

### ④ その他の活動

NHK松山放送局のラジオ放送に出演し、本校の防災に関する活動について紹介した。ラジオ番組への出演は那賀高校から電話でインタビューに答えるというもので、生徒にとって大変貴重な体験となった。

また、那賀町に防災士の会を発足させるための、那賀町社会福祉協議会の主催で準備会が行われ、防災クラブ員2名が参加した。阿南市防災士の会の方が講演され、阿南市での防災士の会がどのような経緯で発足したのか、どのような活動をしているのか講演があった。防災士の会の活動を通して、高校生としてできる活動を考えていきたい。



## V 結果

①防災リュックや防災マスクを作製し、卒業生や地域の方に配付することで、自分たちだけでなく、関わった方々への防災意識の向上につながった。

②地域で行われた防災プログラムには、地元小・中学生と一緒に参加しており、協力して疑似避難所づくりに取り組み、防災について異世代との交流が促進された。

③防災キャンプでは、過去に起こった那賀川の氾濫による洪水被害やダム役割を学び、流量調査や水質調査を実施した。被災に備える減災の意識を高めるための必要な情報を入手する方法を知ることができた。

